



原っ子だより



令和8年もよろしくお祈いします



新年を迎え、20日余りが過ぎました。

令和8年は、「ひのえうま」という年です。「ひのえうま」は60年に一度巡ってくる干支で、「情熱的」「パワフル」な年とされています。情熱溢れるあまりかっとならずに、感情のコントロールを上手にすることも大切ですね。

後期もあと約2カ月となりました。子どもたちそれぞれがめざす姿の実現に向けて思い切りチャレンジしてほしいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、今年もどうぞよろしくお祈いいたします。

担任からのお迎え黑板メッセージ（後期後半はじまりの日）



「原っこルーム」完成!



こんなにきれいな教室に変身しました!

様々な昔道具や学校の発表会道具等を保管していた「社会科資料室」を、学習に活用できるスペースにするため、昨年12月24日に大規模な片付け作業を行いました。地域の方の多大なるご協力もいただき、教職員総出で行いました。「原っ子なら誰でも何にでも使える教室」という意味で「原っこルーム」と名付けました。ご協力いただいた地域の方、本当にありがとうございました。



校内書き初め会



1月8日(木)に校内書き初め会を行いました。書き初めは、平安時代の宮中行事が始まりと言われており、「1月2日の朝に初めて汲んだ水で墨を摺り(すり)、新年の恵方(えほう)といって、運が開ける方角に向かって、詩や歌を書く」というものです。子どもたちは、この一年が「よい年になりますように」という願いを込めて、臨みました。お手本を見ながら、集中して1枚1枚丁寧に書き、最高の文字に出会うことができましたようです。

金賞作品の紹介



四年生金賞作品



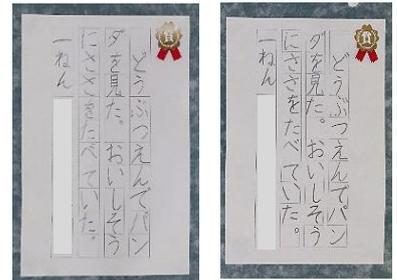
三年生金賞作品



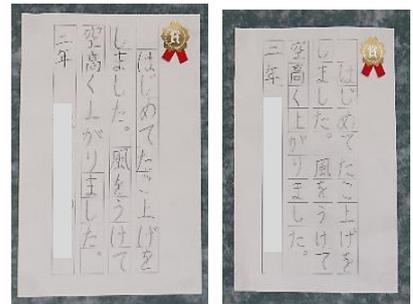
六年生金賞作品



五年生金賞作品



一年生金賞作品



二年生金賞作品

裏面に続きます→

1月の生活目標は「誰にでもあいさつや返事をしよう」です。寒くなり、子どもたちの挨拶の音がますます小さくなっている実態を踏まえ、1月13日(火)～16日(金)の週にあいさつ運動を行いました。頑張る点を4つに絞り、取組を行いました。

① 相手に聞こえる声で ②相手の目を見て ③自分から ④会釈も大切に

①から③をクリアできた子どもたちには、担当の教員からシールを渡しました。あいさつは、相手の気持ちを明るくする朝一番の贈り物であり、「人と人の心をつなぐ」手段の一つです。ご家庭でも、朝から元気なあいさつを交わし、気持ちの良い一日がスタートできるように声掛けをお願いします。



図書委員会発 図書まつり



子どもたちの委員会活動の一つとして、1月13日(火)～23日(金)の期間、図書委員会が、「図書まつり」を行っています。スタンプラリーを行い、5つスタンプがたまると「しおり」がもらえるというものです。PTA 図書サポーターさんにもご協力いただき、5つのジャンルをクリアすることをめざしています。子どもたちは、普段あまり注目しないような本にも目を向けながら、楽しそうにスタンプを集めていました。本に親しむよい機会になることと思います。

原小学校の教育研究

本校では、文章を読んで内容を把握できる読む力を育成するために、本年度、研究主題を「イメージを豊かに働かせて読む力を高める国語科授業づくり」として、実践を重ねてきました。本号では、国語科の授業の中で、教員がどんな工夫をし、どんな子どもたちの姿がみられたかについて、学年ごとにご紹介します。

1年生

進水式を見学し教材で学ぶ船を身近なものとして感じられるようにしたことで、教材と自分の体験を結び付けて読んでいました。



2年生

2つの文章を比較して考えさせる際に、2つの文章を入れ替えて子どもたちに提示したことで、その違和感から生まれるそれぞれの説明の良さ等に気付いていました。



3年生

読み取った昆虫の特徴を短くまとめることを通して、生活と関係付けながら自分の言葉に置き換えて考えていました。



4年生

原文の文章を入れ替えたり、削除したりして提示することの違和感等をもとに、その要因を話し合うことで、原文の良さ気付いていました。



5年生

2つの文章を関係付けて読むことで、今まで気付かなかった文章の中の大事なキーワードに気付き、自分の考えを広げていました。



6年生

言葉の意味を調べる際にその言葉を使った短文づくりに取り組み、言葉の理解を高めることで、自分の言葉で考えたことを説明していました。



「ことのはタイム」の取組紹介

■漢字ドリルに載っている熟語を音読し、その熟語を使って文章を作成する学習

この取組は、漢字や言葉への興味や関心を高め語彙力を豊かにすることをめざし、本年度から朝タイムで始めた取組です。知っている言葉、イメージできる熟語が教材文の中にたくさん現れるため、書かれている内容が少しずつイメージできるようになり、読むことは楽しいと思うようになった子どもたちが増えてきました。

■小川研究主任より

「ことのは」タイムの取組をしたことで、言葉の意味を曖昧なままスルーするのではなく、生活経験と結び付けて自分なりに説明しようとしていたり調べようとしていたりする姿がみられるようになったのが、嬉しいです。

■谷口副研究主任より

イメージをもつことで学びが深まる子どもたちの姿を見ることができるようになりました。

